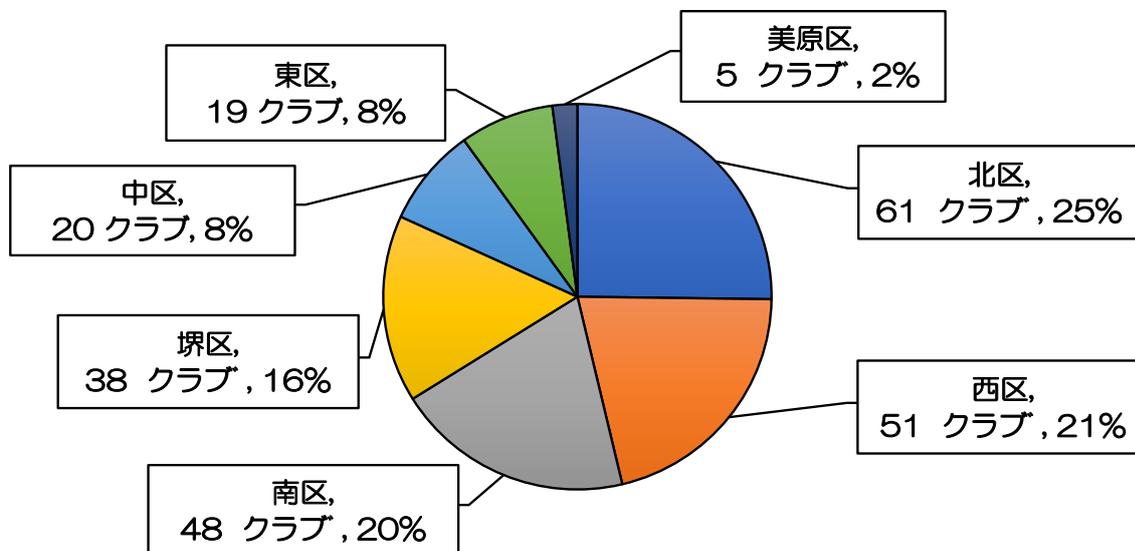




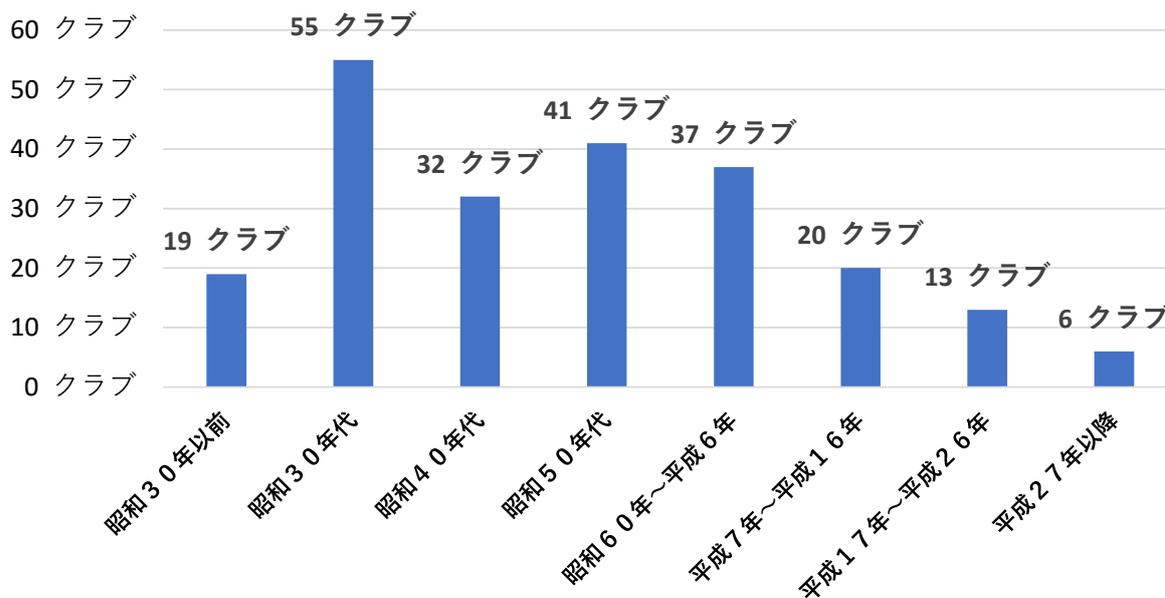
単位老人クラブ調査結果



問1. 単位老人クラブの所在地

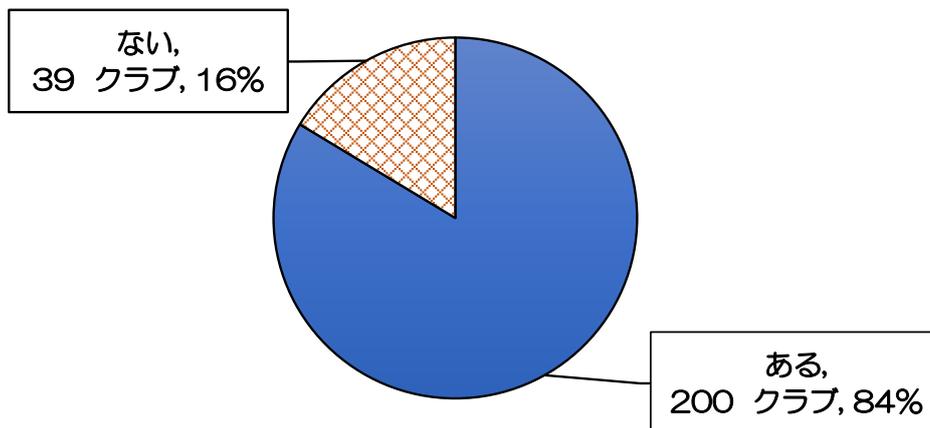


問2. 設立年代



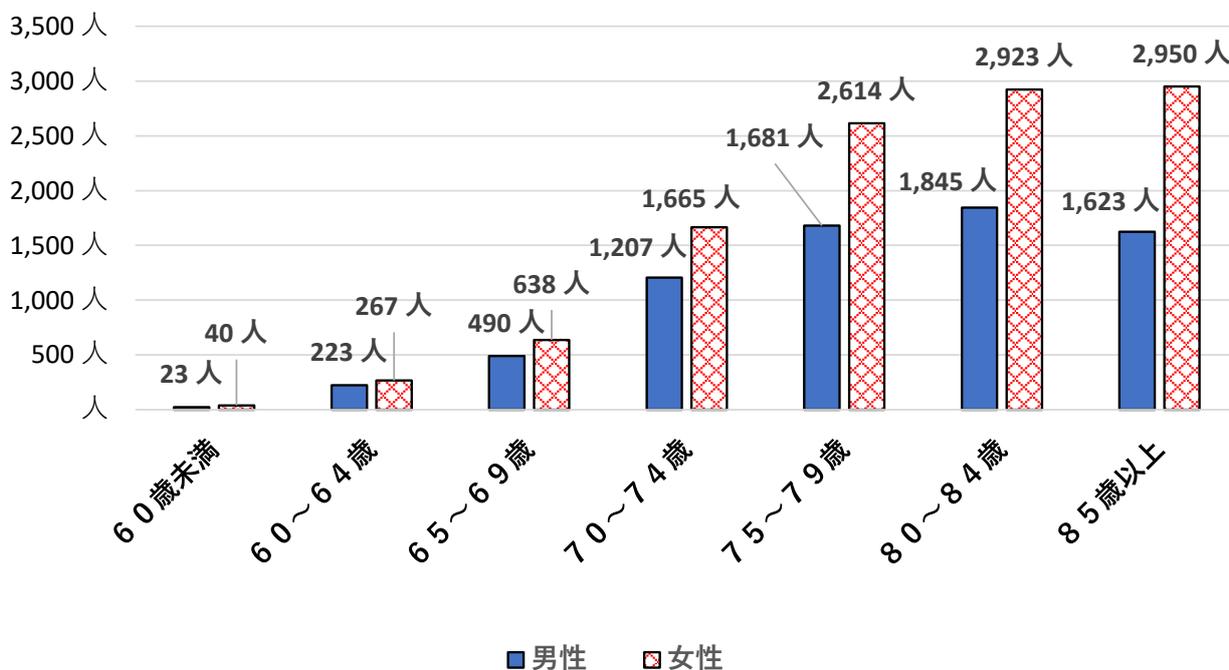
【解説】 昭和30年代の設立が一番多い。次いで昭和50年代となっており昭和時代に設立されたものが大半であることが分かる。

問3. 会則の有無



【解説】 会則を定めているクラブは84%にとどまっている。資料として掲載した全老連の『リーダー必携』に記載の『会則の例示』を参考に、会則を策定することが望ましいと思われる。

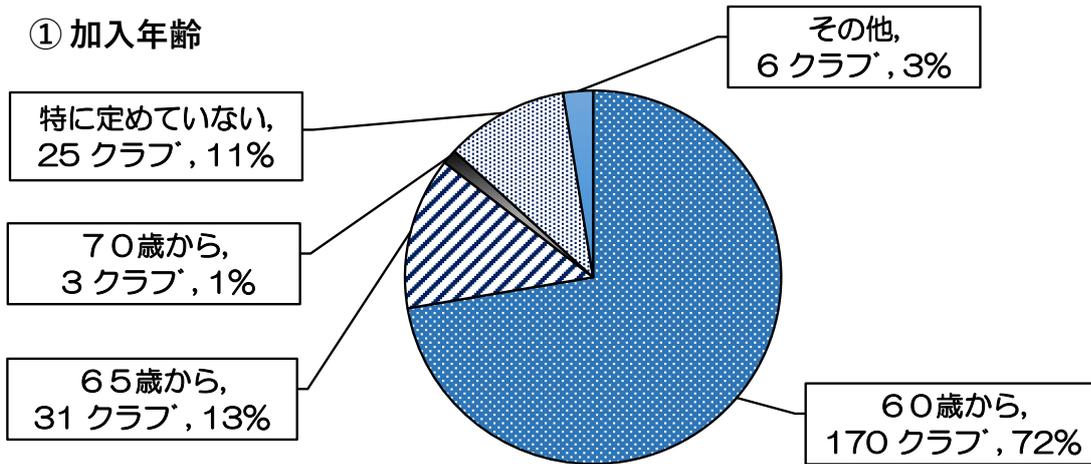
問4. 会員数



【解説】 全体で女性が11,097人(61%)、男性が7,092人(39%)となっている。また、75歳以上が全体で75%（女性だけでは76.5%、男性だけでは72.6%）となっており、高齢化の実態が浮き彫りになっている。

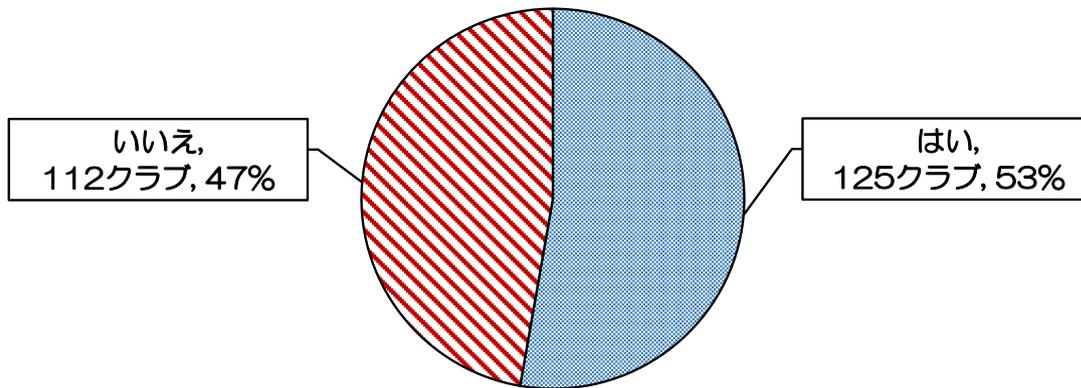
問5. 加入条件について

① 加入年齢



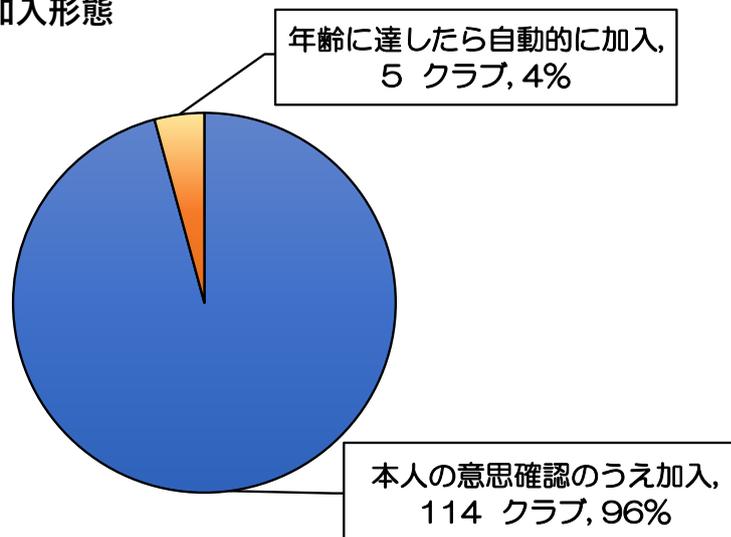
【解説】 「60歳から」が大半(72%)で、「65歳から」を合わせると全体の85%となっている。

② 自治会加入者に限られるか



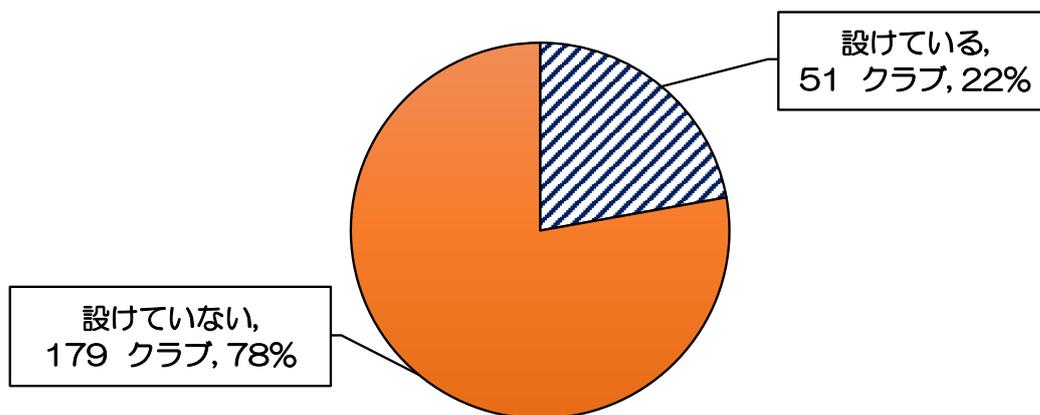
【解説】 老人クラブと自治会は本来、別組織ではあるが、地域での活動内容やそれぞれの会員が重複することがあり、また互いに協力関係にあるところから自治会の加入を条件としているクラブは約半数(53%)であった。

③ 自治会加入の場合の加入形態

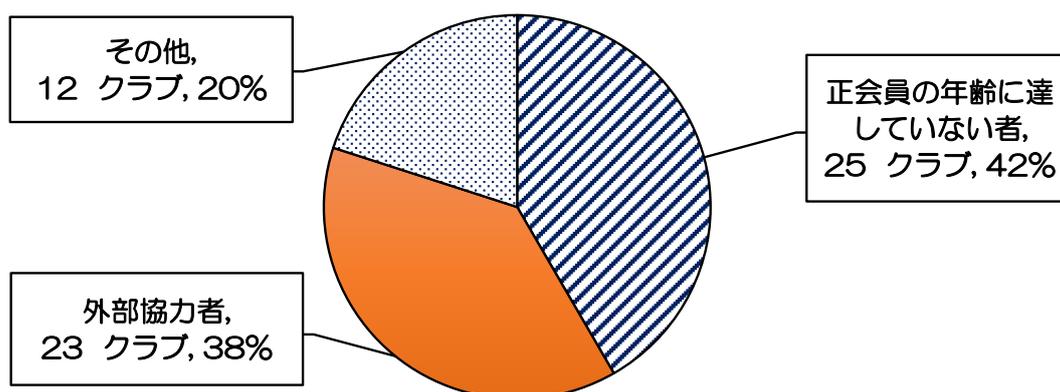


【解説】 老人クラブは任意団体であり、入会、退会は本人の自由意思によるものであるため、本人の意思確認を行っていない5クラブについては本人の意思を確認する必要があると考える。

問6. 会員に準ずる制度の有無と内容

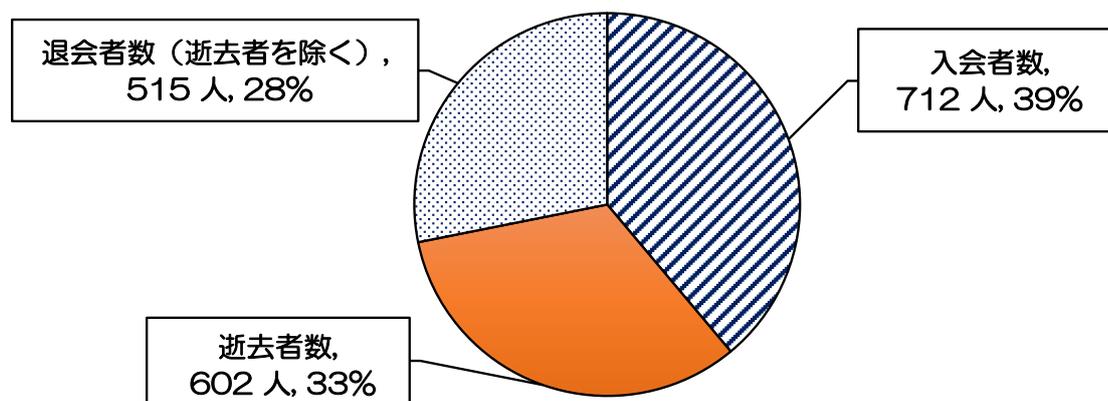


設けている場合の内容（複数回答可）



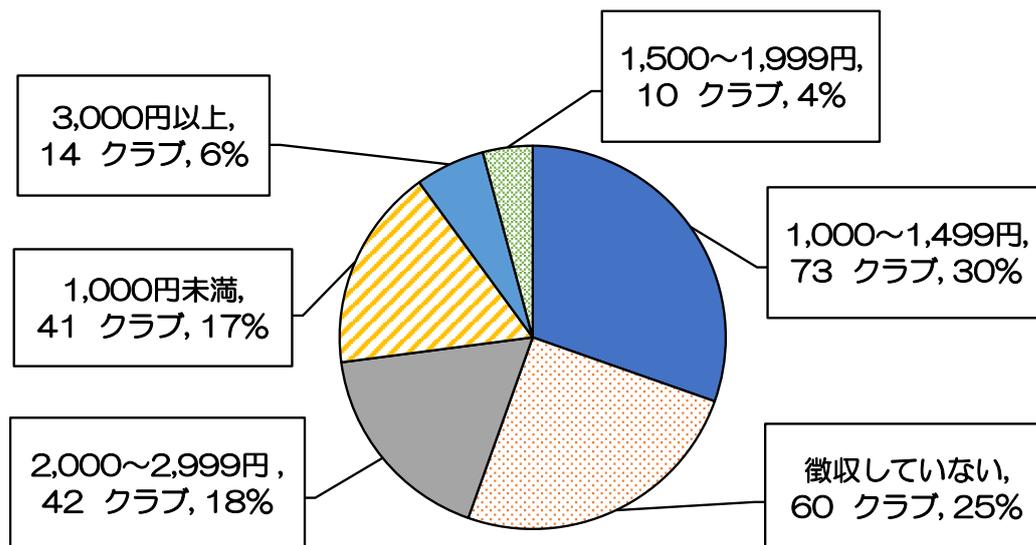
【解説】 準会員制度を設けているクラブが22%あり、そのうち正会員の年齢に達していない若年層の入会を認めているものが42%あった。

問7. 入会者、逝去者、退会者数



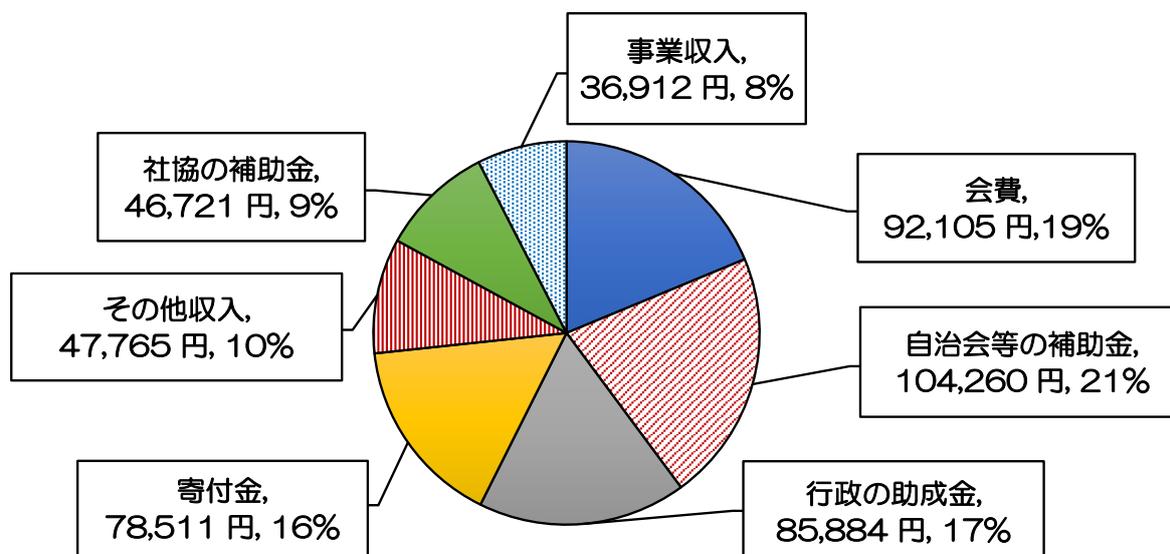
【解説】 入会者(712人)と退会者(515人)だけを比べると、197人の会員が増加したことになるが、逝去者(602人)を加えると、全体では405人の減少となり、会員数減少の大きな要因の一つであることが分かる。

問 8. 1人あたりの年間会費額



【解説】 3,000円までの年会費を徴収しているクラブが69%となっている一方で、会費を徴収していないクラブが25%あった。老人クラブの運営は基本的には所属会員の自主財源(会費)で行うものであり、会の健全な運営、会員の帰属意識・参加意識の醸成のためにも、会費の徴収が望まれる。この調査でも「困っていること」の一つに補助金、助成金が減額されて会の運営に支障が出ていることが挙げられている。

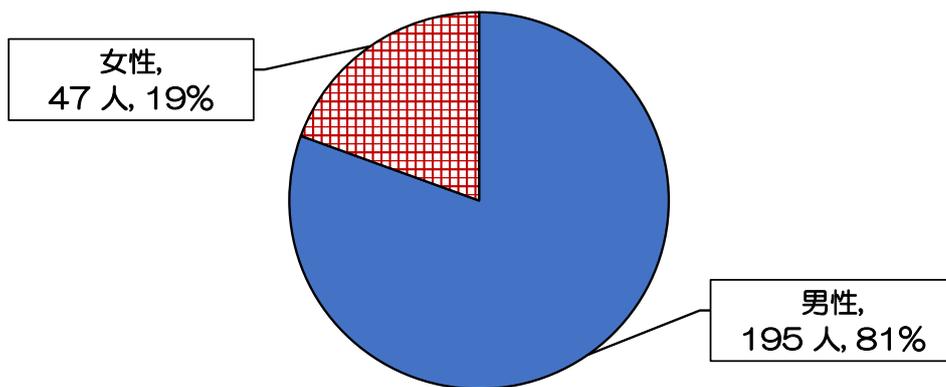
問 9. 収入決算(金額)について



【解説】 自主財源(会費、事業収入)は全体の27%である一方、補助金など他者に頼る財源が47%となっており財政構造としては脆弱感が否めないものとなっている。

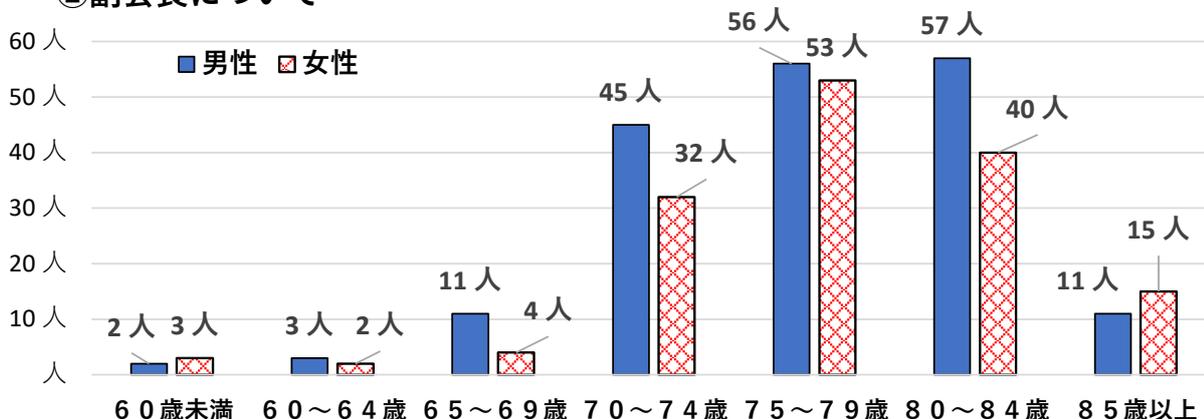
問10. 役員等について

① 会長について



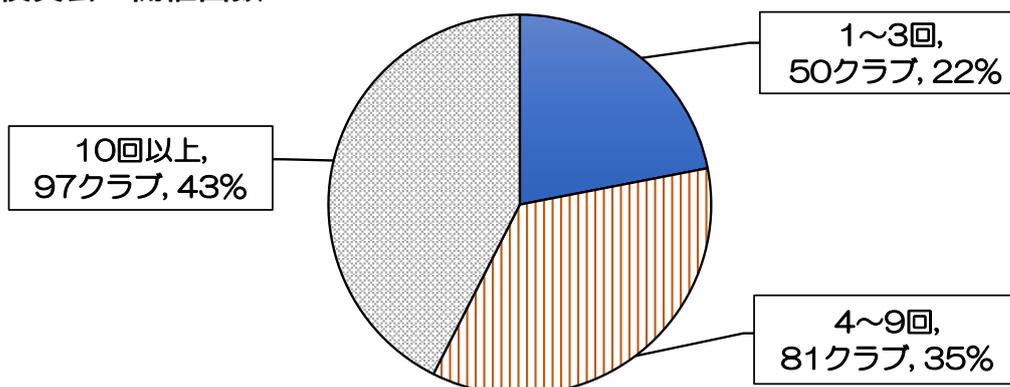
年齢	平均	最高齢	最年少
	78歳	92歳	65歳
在職年数	平均	最長	最短
	7年	27年	1年

② 副会長について



【解説】 会員全体で見ると女性が61%（問4）である一方、会長については男性が81%となっている。また、最高齢は92歳（平均78歳）、在職年数についても最長27年（平均7年）となっており、高齢化、在職年数の長期化が顕著である。
副会長については334人中、女性が149人（45%）、男性が185人（55%）であり、75歳以上が約70%となっており、副会長についても高齢化が顕著である。

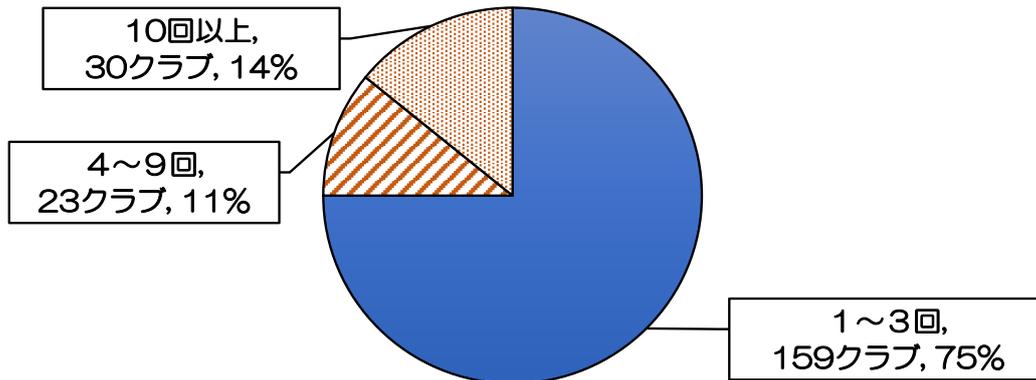
③ 役員会の開催回数



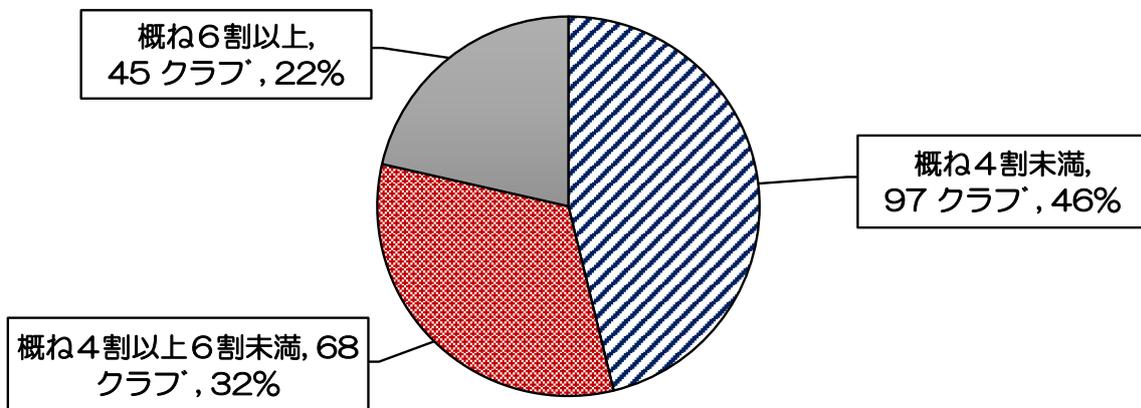
【解説】 会長、副会長等の役員会は年間10回以上行っているところが半数近くあり、役員間のコミュニケーションが円滑に行われていることが伺える。

問 1 1. 会員全員が定期的に集まる例会等について

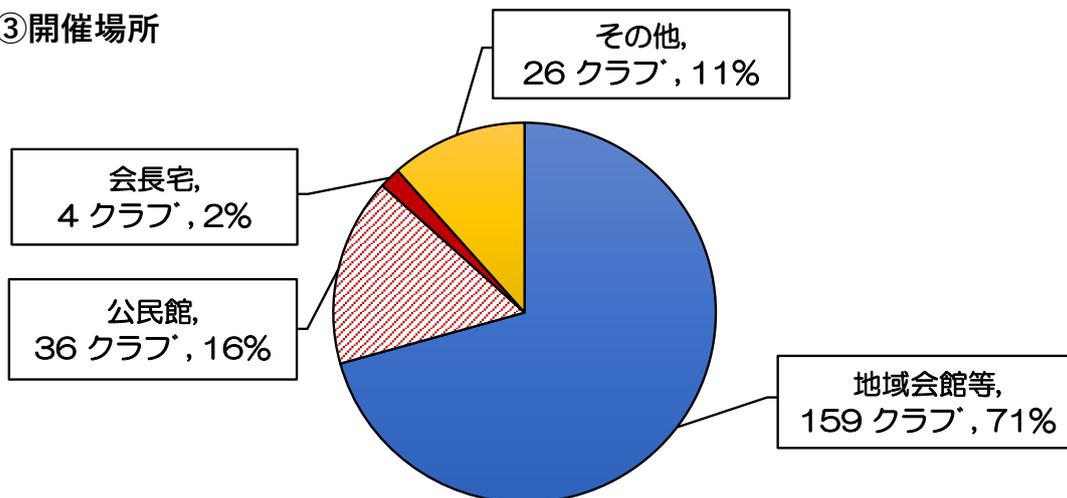
①開催回数



②会員の平均参加状況



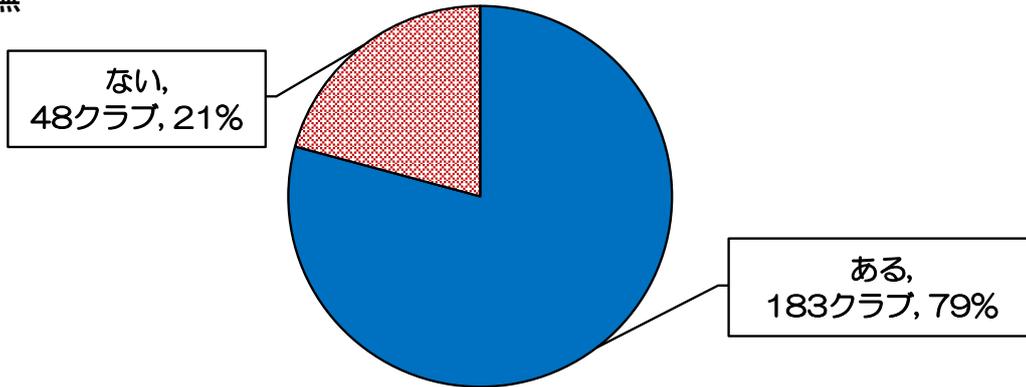
③開催場所



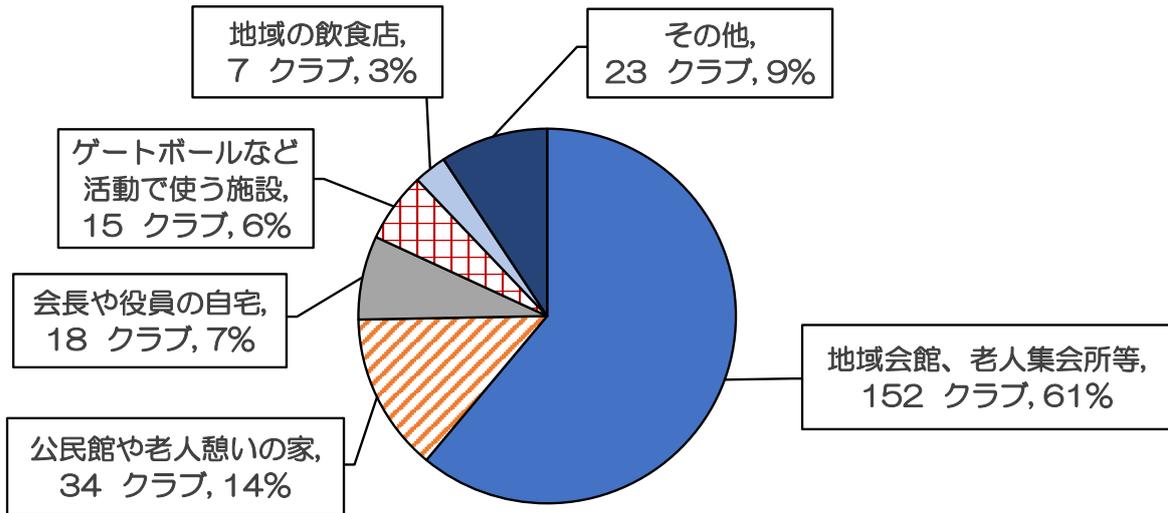
【解説】 役員会は頻繁に開催されている一方で、会員全体が定期的に集まる例会等については年に1～3回が75%となっている。さらには、約半数のクラブで会員の参加率が4割未満となっており、会員全体が集まることの難しさが表れている。

問12. 全員が自由に集まれる場所について

①有無



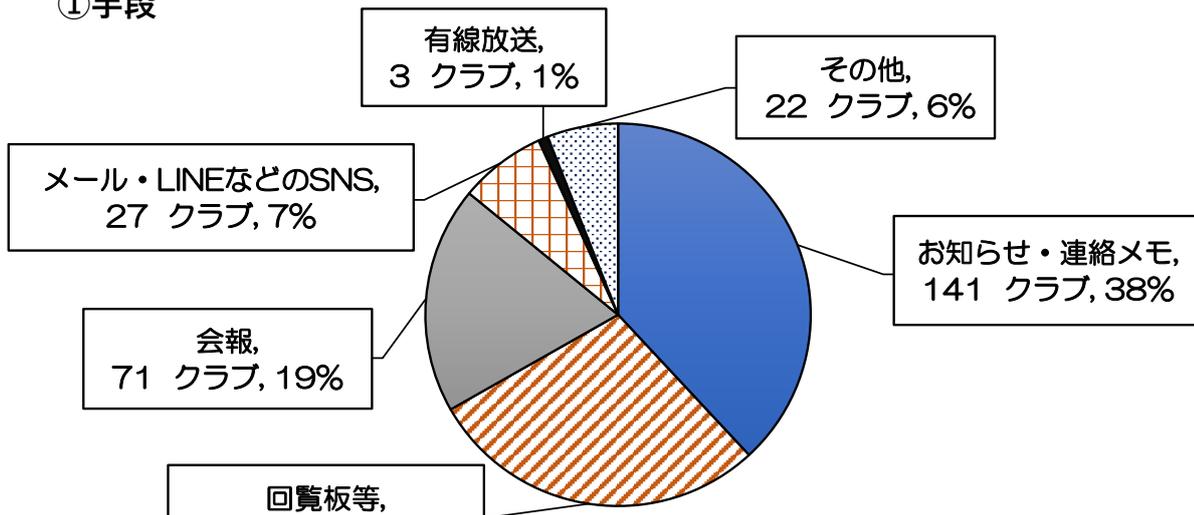
②具体的な場所（複数回答可）



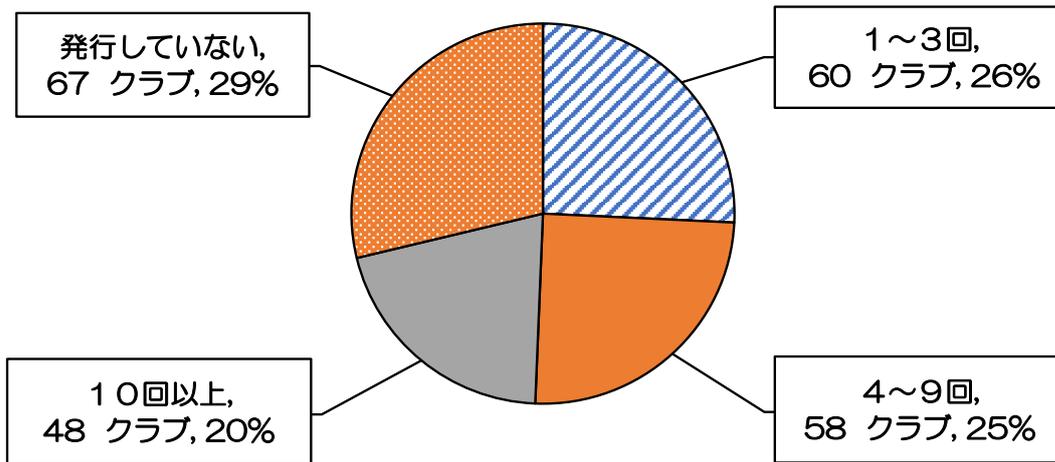
【解説】 地域会館、老人集会所、公民館や老人憩いの家など公的施設が3/4となっているが、その場所でさえ確保できないクラブが21%あり、会員どうしの交流を維持、活性化するためにも場所の確保が今後の課題の一つとなると思われる。

問13. 情報伝達について（複数回答可）

①手段

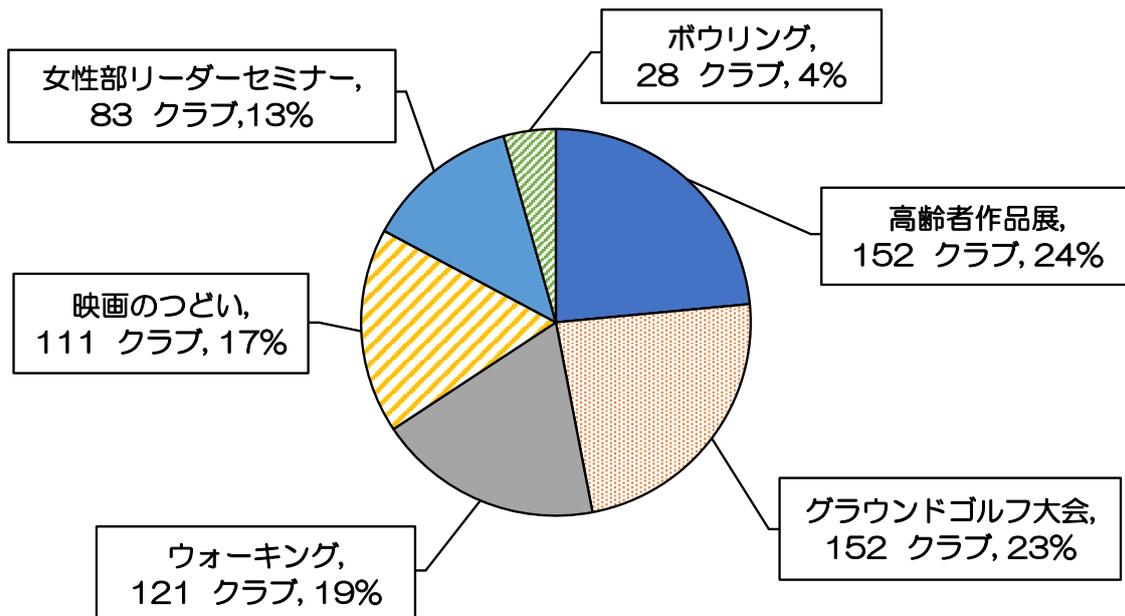


②会報発行回数（年間）



【解説】 情報の伝達方法としては従来からあるメモや回覧板に加え、mailやLINEなどのSNSを活用するクラブが徐々に広がっていることが伺える。また、会報については年間1回以上発行しているクラブが半数近くある一方で、全く発行していないクラブも3割近くあった。

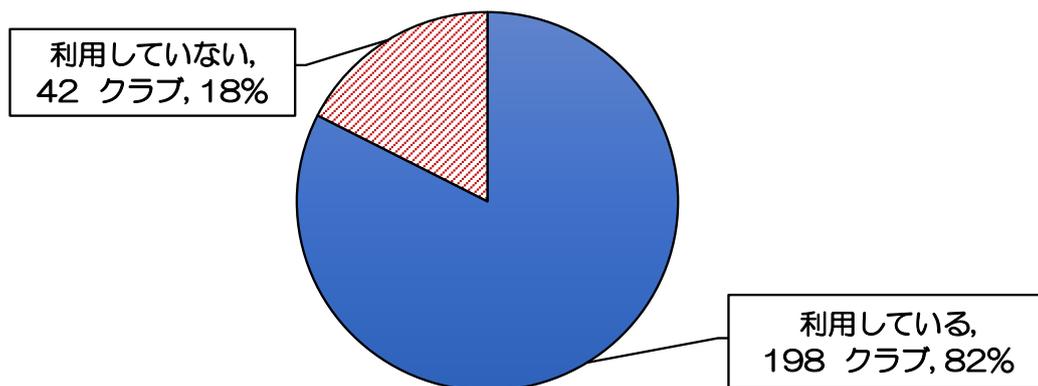
問14. 市老連事業への参加の状況（複数回答可）



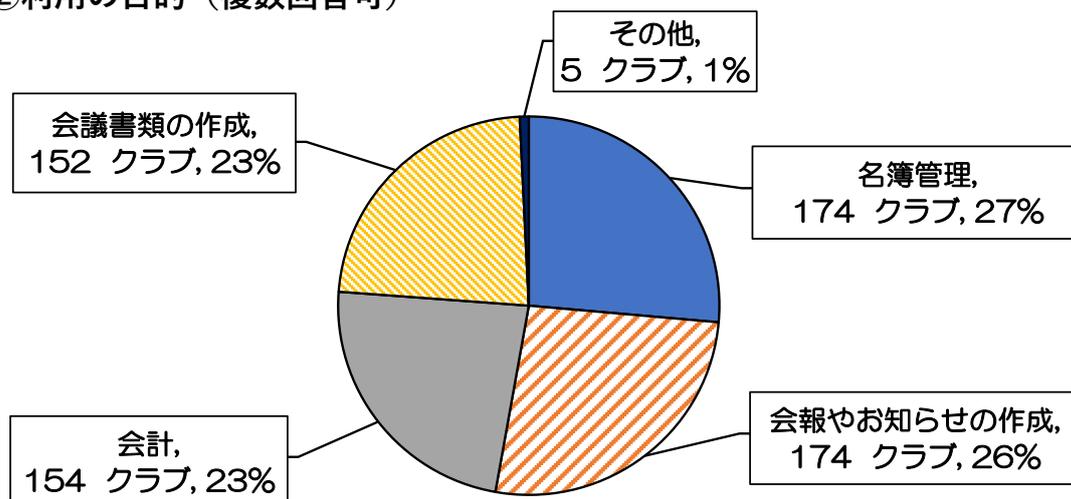
【解説】 市老連主催事業に関しては『高齢者作品展』『グラウンドゴルフ大会』には62%、『ウォーキング』『映画のつどい』には半数のクラブが参加をしており、定番事業として人気が高いことがうかがわれる。今後もより多くの会員さんが参加できる事業に取り組むことが、これからの各老人クラブやひいては市老連の活性化につながると考えられる。

問15. パソコンの利用について

①利用の有無



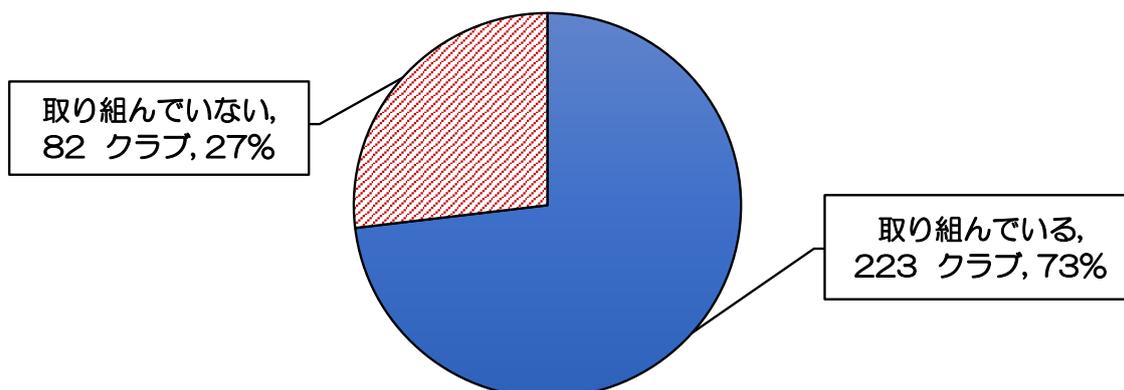
②利用の目的（複数回答可）



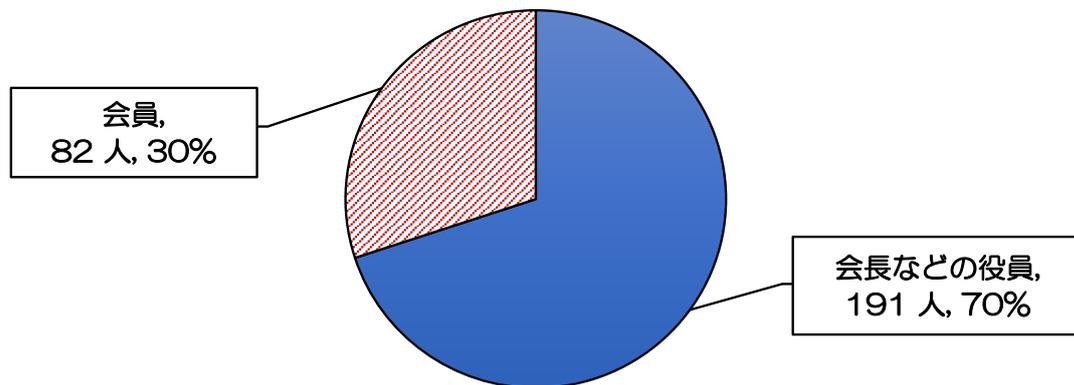
【解説】 パソコンを利用しているクラブは8割以上あり、名簿の管理をはじめ会報や書類の作成のみならず、会計（経理処理）にも利用しており、ITを活用している老人クラブが増えていることが分かる。役員さんの事務軽減のためにもITの活用は重要であると考えられる。

問16. 会員の加入促進について

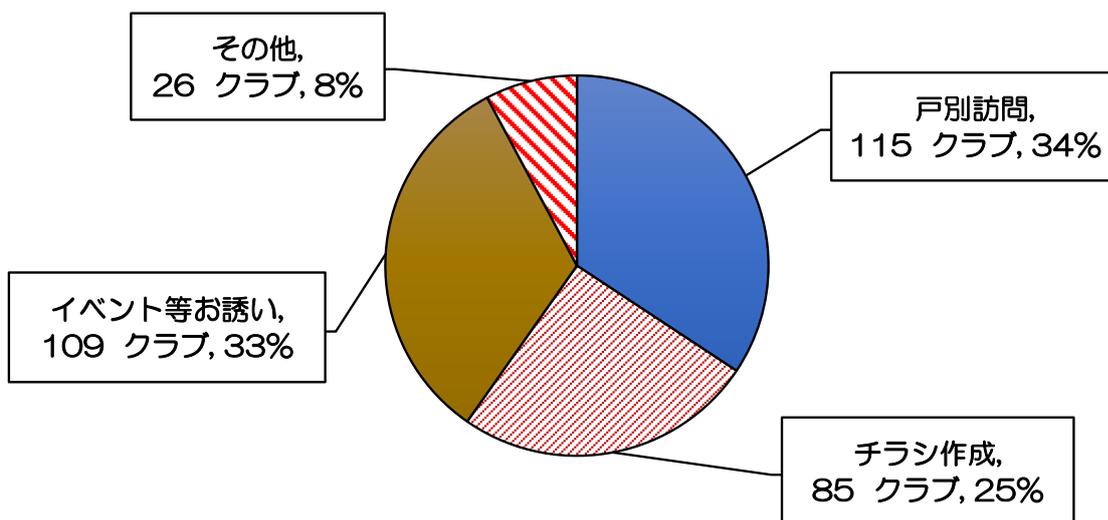
①取組について



②誰が取り組んでいますか（複数回答可）



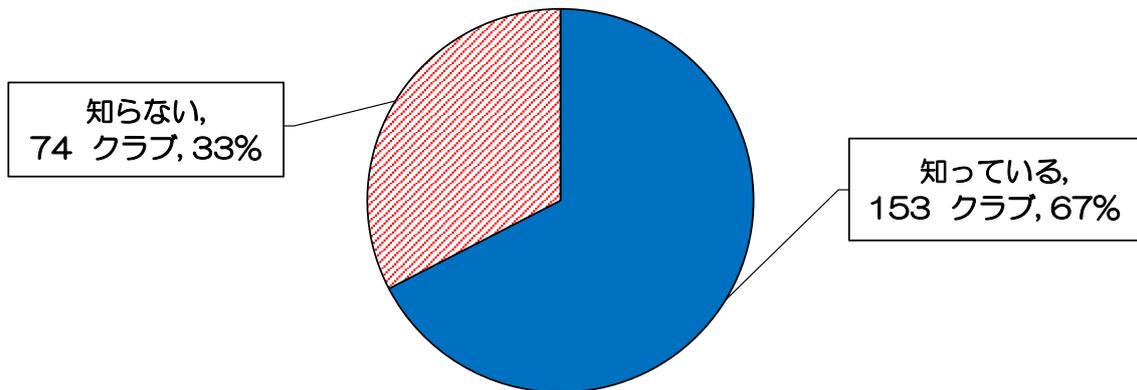
③どのように取り組んでいますか（複数回答可）



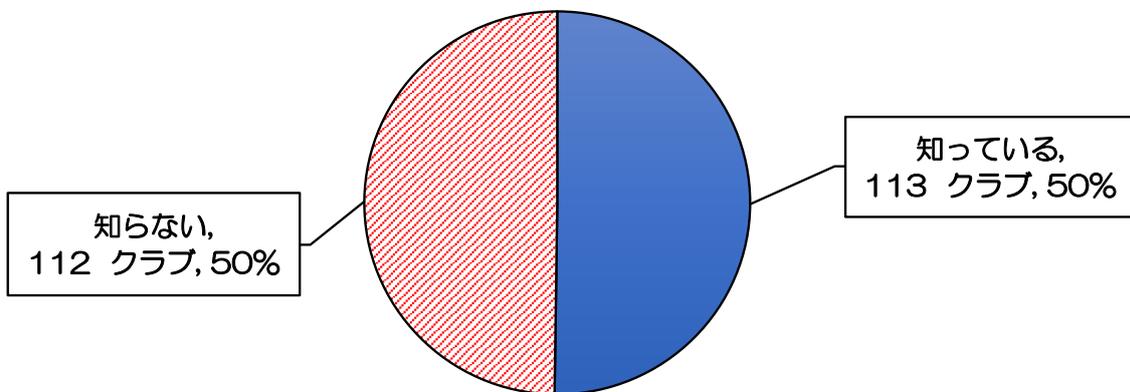
【解説】 73%のクラブが会員の加入促進に取り組んでおり、大半は会長などの役員さんが中心となっているが、3割のクラブでは会員も取り組んでおり、会員の獲得が各クラブにとって重要な課題であるとの認識があることが分かる。また、取り組みとしては戸別訪問やイベントへの誘いが7割近くを占め、特にイベントに体験参加をした方が老人クラブでの交流の楽しさを肌で感じてそのまま入会されるなどの事例の報告も見受けられる。会員の獲得には効果が高い取り組みであることが伺われる。

問17. 全国三大運動について

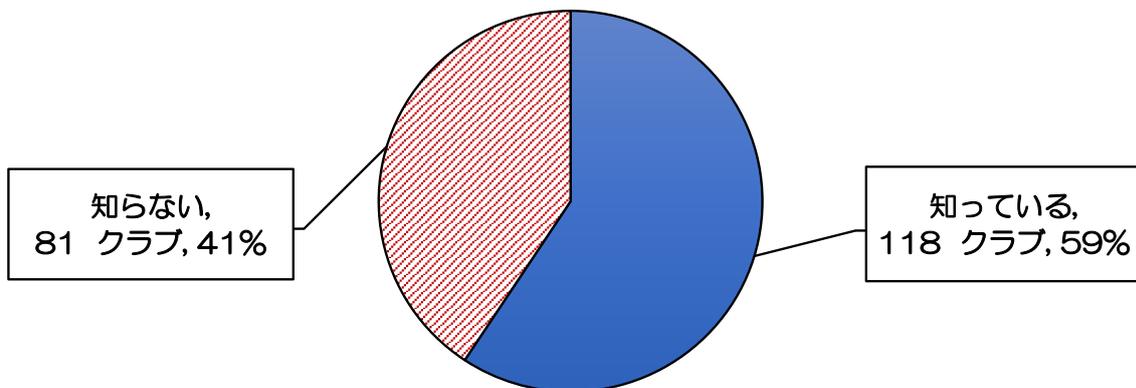
① 「健康をすすめる運動」



② 「在宅福祉を支える友愛活動」について



③ 「社会奉仕の日」について



【解説】 老人クラブの基本理念となる三大運動について認識していないクラブが約半数あり、改めてこれらについて知ることが老人クラブ存続の一つの鍵になるのではないかとされる。